

令和元年度名古屋市教育委員会請願第4号

請願審査について

2020年度使用小学校道徳科教科用図書の採択に関する請願

請願者 三浦 明夫

要旨

- 1 教育出版の小学校道徳科教科書は依然として問題点が多いので採択しないこと
- 2 日本国憲法の基本原理である「人権・平和・共生」の大切さを伝える教科書を採択すること



三 浦 明 夫

Phone [REDACTED]

2020年度使用小学校道德科教科用図書の採択に関する請願

職務への精勤、ご苦労様です。

さて、貴職主宰の教育委員会会議での小学校道德科教科書の採択に関して、日本国憲法と請願法に基づいて、下記のとおり請願するとともに、貴職主宰会議での口頭陳述の機会を要求します。

I 請願趣旨

1 教育出版の現行小学校道德科教科書はやはり問題であった

2年前、私は、教育出版の小学校道德科教科書は問題点が多い旨を指摘し、採択しないよう請願した(裏面添付資料)。

今回、教育出版の次期の小学校道德科教科書(見本本)を見ると、私が限定的に具体的に指摘した問題のある写真や題材の関連資料が削除されている。

具体的には、①2年生用で、オリンピックの選手団旗を「国旗」と誤記したままであるが、「多くの場合」と限定するとともに、より問題であった巻末の押し付けがましい関連資料を消した。②5年生用から安倍首相と野田東大阪市長の2人の現職政治家の写真をなくした。これら以外のさまざまな問題を指摘された題材も、すべてではないが、削除されたり手直しされている。

次期教科書の編著者も貝塚茂樹氏等であるから、編著者自らが不適切と判断したのだと言って差し支えないだろう。採択当時の教育委員は不明を恥じるべきである。

2 教育出版の小学校道德科教科書編著者の思想は日本国憲法と相容れない

②の点などを根拠にしたのだろうが、本市八王子中学校の授業に政治介入した赤池政章参院議員は「愛国心の観点から教育出版は唯一合格点を付けることができる教科書」と評価していた。

このような教科書を編集した貝塚茂樹氏の主張を改めて確認しておこう。『13歳からの道德教科書』(育鵬社、2012)のあとがきで、言う。「…私たちは、日本の伝統と文化に貫かれている根本的な徳が清明心(きよきあかきこころ)ではないかと考えました。」「清明心」は、軍国主義教育の教典のひとつであった旧文部省編集『国体の本義』1937の核心だ。「明き清き心[明るい心!]は、主我的・利己的な心を去って…君民一体の肇(もろこ)国以来の道に生きる心である。…やがて義勇奉公の心となって現れ、身を捨てて国に殉ずる心となって現れる。」日本国憲法と正反対の思想である。

3 教育出版の次期小学校道德科教科書も問題である

いくぶん抑制気味にはなったが、相変わらず、22の「内容項目」=徳目(国定価値)への同化に誘導する編集をしていることが最大の問題点である。「考え、議論する道德」を保障するものとは言い難い。

なお、上記登場人物の関係は次のとおり(2012~17年当時)。

日本教育再生機構(八木秀次理事長) 応援→

→改正教育基本法に基づく

教科書改善を進める有識者の会 →中学校社会科(歴史・公民)教科書(育鵬社、2012)

→道德教育を進める有識者の会→編集委員会 →13歳からの道德教科書(育鵬社、2012)

(貝塚茂樹 他)

↓編著

安倍晋三衆院議員・野田義和東大阪市長

↓推薦・応援

↑絶賛
安倍晋三衆院議員

教育出版小学校道德科教科書 ←推薦-赤池政章参院議員(日本会議議員連盟)
(安倍晋三首相・野田義和東大阪市長の写真掲載)

II 請願内容

1. 教育出版の小学校道德科教科書は依然として問題点が多いので採択しないでください。
2. 日本国憲法の基本原理である「人権・平和・共生」の大切さを伝える教科書を採択してください。

以上

2017年7月11日

名古屋市教育委員会
教育長 杉崎 正美 様



三浦 明夫

2018年度使用小学校道徳科教科用図書の採択に関する請願

職務へのご精勤、ご苦労様です。

さて、貴職主宰の教育委員会会議での小学校道徳科教科書の採択に関して、下記のとおり請願するとともに、貴職主宰会議での口頭陳述の機会を要求します。

1 請願趣旨

① 請願者は、20年以上にわたって教科書採択に関する行政文書を公開請求し、貴職らの採択会議も傍聴してきたところ、いくつかの問題点を痛感し、その改善を求めて、2015年1月に初めて個人として請願権を行使した。その結果、傍聴席の拡充については、同年7～8月の採択会議場が5階の第5会議室に移され、抽選漏れが多数出たものの、それでも従来の4倍に当たる40人もの市民(教科書発行者の営業担当社員を含む)が傍聴できた。

ところが、本年度、初めての小学校道徳科の、初めての教科書の採択で、市民の関心が高まっているにもかかわらず、本市HPでの公告では7月20日の定例会は「教育委員会室」とされている。これでは昔に後退だと思い、事務局総務課庶務係の担当者に訊いたところ、「20日の7月定例会で道徳科教科書を採択予定」と教示されたので、その場で広い会場への変更を要請した。

なお、先の担当者には、念のため、従来のパターンである「臨時会を設定し決めるのではないのか」とも質したが、否定した。ただし、4月定例会の第1号議案には、「採択」と使い分けて、道徳については「採択審議」の表現が見られ、「予備日…臨時会」も注記されているので、担当者の教示には疑念ももっている。

本題に戻れば、20日定例会の議題に「道徳科教科書の採択」を入れてHPで公告するならば、会場を第5会議室等の広い部屋に変更していただきたい、というのが請願の趣旨である。本請願を何らかの方法(例えば、14日の教育総合会議の後の臨時会の設定)で「了」と決定され、事前公告していただきたい。その場合は、冒頭に述べた口頭陳述の機会の請求は取り下げる。現在の公告どおり「教育委員会室」に固執される場合は、滑稽は承知のうえ、20日定例会での口頭陳述の時間を要求する。

② 教育出版の小学校道徳科教科書の代表著作者3人のうちの2人が、育鵬社(戦争を肯定的に叙述する中学校歴史教科書を発行)の「パイロット版」道徳教科書の編著者、武蔵野大学教授貝塚茂樹、岐阜大学大学院准教授柳沼良太の両氏だ。貝塚氏は、とりわけ、戦前の「教育勅語」や『修身科』を賛美する発言をしてきたが、彼らが編集した育鵬社道徳教科書には、『修身科』さながらの軍国美談や天皇賛美の教材が目立ち、日本国憲法や教育基本法に抵触すると考えられるが、安倍晋三首相が絶賛するほどである。その安倍首相の写真が5年生用の「下町ボブスレー―町工場の挑戦―」に掲載されているが、本文の内容と直接の関係はなく、政治家の宣伝のような印象を受ける。東大阪市野田市長も同じ5年生用に載っているが、現職政治家の写真を載せているのは教育出版だけ。まして、安倍首相は森友・加計学園疑惑の渦中の政治家である。そもそも、歴史的評価の定まっていない現職政治家を、「人としての生き方を学ばせようとするもの」とされている道徳科教科書に、写真といえど載せることは不適切である。その他、オリンピック選手団旗について事実と反する記載も見られ、教科書としてはふさわしくない。

2 請願内容

1 小学校道徳科教科書を採択する教育委員会会議を、教育委員会室以外の、傍聴希望者ができる限り大勢入ることができる、広い会場で開いてください。

2 教育出版の小学校道徳科教科書は問題点が多いので採択しないでください。

以上